

市民の面談要求に 逃げ回る市長 やっぱり 温泉建設は大問題

「温泉問題を考える会」では、調べるほど「なぜいま温泉建設なのか」疑問が続出し、市長に質問状を提出して面談を求めてきました。しかし市長は多忙を理由に会の代表と会おうとしません。

代理者による回答文の読み上げで済まされましたが、疑問が深まる一方です。6月10日の「会」主催の市民集会では、この報告を聞いた参加者から、怒りの声と、運動の提案が相次ぎました。



5月17日に行われた対市交渉

いま
市民生活は大変。さらに、住民税の大幅値上げでシヨック！
市民生活支援、学校教育充実にもこそ財政を

市は国保税の連続値上げ、介護保険料の大幅値上げ、公共施設利用料値上げなど市民に負担を押しつけてきています。

その上に、多くの市民は最近届いた住民税の納税通知を見て驚いています。去年の額より二倍、中には数倍という市民もいて「間違いでは？」と怒り、問合せが市役所に殺到し、税務課は応対に大わらわです。

市は温泉建設のためか、財政難を理由にこんどの予算で、学校教育予算など四〇〇項目にわたる削減をしました。その結果、学校体

育館の耐震診断を六校から二校に減らしました。さらに学校への経費削減は深刻で、非常階段が壊れていて使えない。ガラス窓が何年も割れたまま、その荒廃はひど

赤字間違いなしなのに、「市長は責任をどうとるの？」

多摩地域だけでも日帰り温泉施設は五〇以上もあり、生き残りをかけてどこも必死です。

誰に聞いても、隣の「日の出や檜原にもあるのに」といい、赤字間違いなしという答えがかえってきます。

「会」から市長に「赤字だった時に市長はどう責任をとるのか」と問いかけたのに対し市長は、「良い方向へ向うように努力します」と、まともには答えられず、はぐらかしてしまいました。これでは市民は納得出来ません。

第3回 市民集会で

「こんなこと許していいの？」

怒りの声

集会では、対市交渉の報告とともに、6月市議会や市民団体の調査で新たに判った市の財政の実態が報告されました。

参加した市議会議員が6月議会で、「市の借金がすべてを合計すると1千億円を越えていることが分かった」と報告(詳細は裏面)。

また、市民団体の「みんなの会」が調べた結果、合併後10年で市民の負担は1.9倍(詳細は裏面)になっていると訴えると会場から「こんなこと許していいの？」と怒りの声がつぎつ

新しい運動の提案も

ぎとあがりました。

会場からは、提案があいつぎ、「ここで知った事実を市民にピラや宣伝力」でひろめよう。ハンドマイク宣伝にも立ち上がるう」など活発に議論されました。また、「住民投票条例制定の請求」と「住民監査請求訴訟」などが具体的に提案され、これらの意見を生かし、新しい運動を世話人会として検討し、みなさんに呼びかけることになりました。

市民のみなさんへ
ご協力をお願い

世話人代表 竹之内正雄 ☎550-3787

「温泉問題を考える会」は市民のみなさんのご意見を聞きながら、新しい運動を起していきたいと考えています。そのための折り返しの葉書アンケートにご協力下さい。また、今後の活動を支える財政カンパにご協力下さい。(折り返しの郵便振込用紙=00170-3-759931=温泉問題を考える会)

借金漬け の「あきる野市」

一般会計
特別会計
第3セクター
その他

併せて 1千億円余も！

市議会でも明らかに...

この程、市議会であきる野市がかかえる借金が1千億円を超えることが判ってきました。赤ちゃんからお年寄りまで含めた市民一人当りにすると約127万円にもなるとんでもない額です。そのうえ、温泉施設建設でさらに借金をしようとしているのですから、市民にとってはたまったものではありません。

この10年で
豪華庁舎、圏央道関連道路などで
188件、287億円の借金(起債)
その上、温泉施設建設で約20億円も

合併のとき、財政運営の効率化がはかられるといわれ、生活環境やくらし、福祉、教育などが充実できると期待が持たれました。しかし、事実は合併の特例で安く借りられるとあって、豪華庁舎の建設など大型公共事業に莫大な資金を投入。更に温泉建設に24億9千万円も注ぎ込み、市民生活予算は削られるのですからたまりません。おまけに、地方交付金が国の方針で削られて来ていて、「有利な借金だから」という根拠も、見通しもありません。

この10年で
市民には国保税連続引上げなど
大幅負担増とサービスカットで
市民一人当たりの負担は1.9倍にも

国の減税廃止や歳出カットで国民のくらしが大変な時こそ、市民のくらしの防波堤になるのが地方自治体の役割です。それなのに、あきる野市では多摩地区の先頭を切って01年、公民館利用料などを有料化し、使用料や手数料の大幅な値上げも実施しました。

国民健康保険税、保育料、学校給食費、下水道料金などが軒並み値上げ、こみ有料化も実施しています。これを併せて計算すると、10年前に市民一人当たりの負担は、約3万500円だったものが、06年度には約5万800円と1.9倍に引き上げられたことになりました。



借金の内訳と総額

一般会計	274億円
特別会計(下水道を含む)	354億円
土地開発公社債務保証	90億円
阿伎留病院負担金	135億円
西秋川衛生組合負担金	174億円
合計	1,027億円



市民 情報

今年4月頃から、数社の新聞紙上で、あきる野市の温泉施設建設工事の入札問題をめぐる恐喝事件が報道されました。東京新聞4月1日付けによると「……5人は、昨年8～11月、東京都あきる野市の建設会社社長(58)に『談合の情報がある連絡をくれ。連絡がなければ談合を認めたとして市役所に通報する。』『手抜き工事を市に通報する』などと言い掛かりをつけ、現金計千百五十万円を脅し取った疑い。」となっており、他にも『読売』(06.4.21)、『毎日』(06.5.23)などが同様の記事を掲載しています。

温泉施設工事落札で脅迫事件も

小中学校の耐震改修状況(多摩26市)

順位	耐震化	耐震診断
①福生市	100%	100%
①羽村市	100%	100%
③西京市	96%	98%
④稲城市	93%	91%
⑤武蔵野市	87%	100%
⑥町田市	81%	100%
⑦国分寺市	76%	81%
⑧多摩市	72%	73%
⑨小平市	68%	100%
⑩三鷹市	63%	100%
⑪東久留米市	60%	66%
⑫立川市	57%	100%
⑬小金井市	54%	88%
⑭国立市	52%	66%
⑮日野市	52%	90%
⑳あきる野市	29%	66%
㉑昭島市	28%	88%
㉒清瀬市	26%	28%
㉓東大和市	22%	64%

学校耐震化率は多摩26市中23番目



※『毎日』06年6月3日付けより作成。小数点以下省略。